

研究主題

特別支援学校(知的障がい)における 自閉症のある児童生徒への 指導・支援の充実に関する研究

—自立活動における他者とのかかわりに関する実践を通して—

【研究担当者】佐々木 清悦
【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562
E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

1 自閉症のある児童生徒への指導・支援

自閉症のある児童生徒は、他者との社会的関係の形成の困難さや言葉の発達の遅れなどの行動の特徴があります。自閉症のある児童生徒については、他者とのかかわりに関する困難さがあり、その困難さへの対応が必要です。

そのためには、児童生徒一人一人への具体的な指導内容を設定し、障がいによる学習上又は生活上の困難さを主体的に改善・克服する自立活動の視点を取り入れた教育活動の展開と、領域・教科を合わせた指導とを同時並行的に行っていくことが必要です。



2 自閉症のある児童生徒の自立活動ガイドブック

「自閉症のある児童生徒の自立活動ガイドブック～他者とのかかわり編～」表紙

「自閉症のある児童生徒の自立活動ガイドブック」(以下ガイドブック)は、生活に結び付いた実際の具体的な活動に、自立活動の視点に基づく指導内容や支援方法を加え、自閉症のある児童生徒への指導・支援に役立てることを目的に作成しました。

目次と特徴

【目次】

- 1 自立活動の基本的な考え方
- 2 自立活動の指導を進めるに当たっての取組
- 3 自閉症の特性に応じた指導・支援
- 4 他者とのかかわりに関する自立活動の進め方
- 5 他者とのかかわりに関する自立活動

【特徴】

- ◆自立活動の基本的な考え方等について理解できます。
 - ・自立活動の基本的な考え方等を簡潔に示しています。
 - ・自立活動の指導に関する知識を深めたり、広げたりするための参考となる図書やWebページを紹介しています。
- ◆自立活動の視点を踏まえた実践への見通しをもつことができます。
 - ・自立活動の進め方について、実践例を交えながら具体的に示しています。

7 自立活動の基本的な考え方

1 自立活動の変遷

特別支援学校学習指導要領(CF)について以下のように

- ◆1971年に障がいの状態として創設された。
- ◆1998年7月にまとめられ、幼児児童生徒の実態に的確にするため、名称を「児童生徒の障がいの状態の提言された。これを受け
- ◆2001年に、世界保健機関国際生活機能分類(ICF障がい)が生じました。1しつづつあることを踏まえ、的的確に把握し、相互のすることがこれまで以上

2 自立活動の目標

個々の児童生徒が主体的に改善・克服しを養い、もって心身の

3 自立活動の内容

自立活動の内容は、を区分2009年に「人間関係の形成

- 1 健康の保持(4項)
- 2 心理的な安定(3)
- 3 人間関係の形成(4)
- 4 環境の把握(5項)
- 5 身体の動き(5項)
- 6 コミュニケーション

個別の指導計画の作成①

- 時期
学期はじめ、あるいは単元取組前
- 形態
学級担任による作成
※必要に応じて学年主任や研究主任に相談
- 内容
自立活動の視点による指導の目標(ねらい)や指導場面の設定

◆実践例

担任は、前担任から引き継いだ個別の指導計画を見ながら、太郎さんの様子を思い浮かべました。はじめは、太郎さんがまだできないことや、教師の頼みを中心に考えていました。しかし、研修会で学んだ児童生徒の立場に立ち、『学校生活の充実』『自立と社会参加』『就労実現』ということを出し、他者とのかかわりに関する指導内容表を開きました。

他者とのかかわりに関する指導内容表には、具体的な指導内容や指導場面、留意事項が書いてあり、実際の場面の中で太郎さんが活動している様子をイメージできました。この他者とのかかわりに関する指導内容表を参考にして、太郎さんの指導の目標(ねらい)を整理したり焦点化したりしました。そして、設定した指導の目標(ねらい)を指導する場面(指導形態)について考えました。

学期はじめは、自立活動はもちろんのこと、各教科等の計画も確認しなければなりません。ここでも、学校生活の充実と自立や社会参加の実現の視点とこれまでの様子から、各教科等の目標(具体的な指導内容)を設定しました。そして、各教科等の目標(具体的な指導内容)につなげる支援方法について考えました。最初に、他者とのかかわりに関する指導内容表を見ていたこともあり、自立活動の視点で各教科等を考えることができ、それぞれの教科等における支援方法のアイデアが生まれてきました。

自立活動の視点で考えることは、児童生徒の特性に応じた支援につながるということを感じました。

作成上、分からないことや自分の考えがまとまらないときは、放課後に学年主任の先生に声を掛けて相談のつてもらいました。

Q & A 個別の指導計画を作成するに当たって、気を付けることは何でしょうか?

個別の指導計画を作成するに当たっては、各校で培われてきた様式や作成方法を大切にしましょう。その中で、先輩の先生方から作成の動向について学んでいくことも必要です。

なお、「個別の指導計画作成ハンドブック」等の書籍や当センターWebページに掲載している資料を参考にすることも考えられます。

「個別の指導計画作成ハンドブック第2版」, 南津亜希子著(2011), 日本文化科学社, 1,470円(税込)

個別の指導計画の作成のポイント

個別の指導計画を作成するに当たっては、各校で培われてきた様式や作成方法を大切にしましょう。
また、以下に示す作成手順を参考にすることも考えられます。

Step1 指導の目標(ねらい)

児童生徒の実態を基に、目標を整理し焦点化しましょう。

Step2 指導の場面

指導の目標(ねらい)を指導する場面を設定しましょう。それぞれの指導の形態そのもののねらいを大切にしながら必然性のある流れで指導することが大切です。特設した時間での指導で設定する場合でも、生活場面と結び付けるなど留意しましょう。

Step3 指導の場面における目標(具体的な指導内容)

指導の目標(ねらい)を具体的な活動レベルで設定しましょう。自立活動の6区分26項目を参考にしながら、どのような場面での活動なのか、どのような指導内容が盛り込まれているのかなどを明確にし、具体的に設定することが大切です。

Step4 支援方法

支援方法を設定しましょう。支援方法については、以下のことを盛り込む必要があります。また、活動につながったときの手立て、活動につながらないときの手立てについても検討しておくことが大切です。

- ① 活動や内容そのものとしての手立て
- ② 場の設定などの手立て
- ③ 教師等のかかわりとしての手立て

※詳細は、ガイドブック P14

個別の指導計画の作成例

◆指導の目標(ねらい)

指導の目標(ねらい)	評価
・身近な人に自分の要求を正しい言葉で伝える。	
自立活動の内容	
指導内容表：意思や感情の共有「言語等による表出」	
学習指導要領：3(2)、6(2)	

◆学習の記録

目標(具体的な指導内容)	支援方法	評価
・昼休み時間、担任に「体育館に行きます」と言葉で伝える。	・遊びに行きたい要求場面において、自発的な要求を促す。 ・教師から「どこに行って遊びますか」と尋ね、太郎さんが「体育館に行きます」と答えるまで待つ。太郎さんが言葉に詰まる場合には、「体育館」「体」などと言ってヒントを与える。	

※個別の指導計画から一部抜粋

※詳細は、ガイドブック P14

自立活動の指導を進めるに当たっての取組

※詳細は、ガイドブック P4

【指導面】

- 1 児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定
- 2 それぞれの指導形態のよさを生かした指導
- 3 個別の指導計画の活用

【推進面】

- 1 自立活動の基本的な考え方等についての理解
- 2 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解

自立活動の進め方

※詳細は、ガイドブック P7

指導・支援の展開	指導面に関する取組	推進面に関する取組	使用するもの
研修		1 自立活動の基本的な考え方等についての理解 校内研修等による、ガイドブック等を活用した自立活動に関する内容や個別の指導計画についての研修	・ガイドブック ・特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編・総則等編 ・他者とのかかわりに関する指導内容表 ・個別の指導計画
個別の指導計画の作成①	1 児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定 3 個別の指導計画の活用 学校生活の充実や就労実現を見据えた指導の目標(ねらい)や指導内容、指導場面の設定		
学年会		2 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解 学年会による、個別の指導計画を活用した、指導の目標(ねらい)や指導内容、指導場面の検討及び共通理解	・学年会の進め方資料 ・学年会資料
個別の指導計画の作成②	1 児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定 3 個別の指導計画の活用 指導場面における目標(具体的な指導内容)、支援方法の設定		・ガイドブック ・特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編・総則等編 ・他者とのかかわりに関する指導内容表 ・個別の指導計画
学年会		2 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解 学年会による、個別の指導計画を活用した、指導場面における目標(具体的な指導内容)、支援方法の検討及び共通理解	・学年会の進め方資料 ・学年会資料
実践	2 それぞれの指導形態のよさを生かした指導 3 個別の指導計画の活用		・個別の指導計画
学年会		2 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解 学年会による、個別の指導計画を活用した、指導場面における目標(具体的な指導内容)、支援方法の確認と修正	・ガイドブック ・特別支援学校学習指導要領 自立活動編 ・他者とのかかわりに関する指導内容表 ・個別の指導計画
個別の指導計画による評価	3 個別の指導計画の活用 実践に基づく、目標、指導場面、指導内容、支援方法の評価、上学年や上学部への引継		

学年会における大まかな検討の流れと主な話し合いの様子

実践例を交えながら具体的に、自立活動の進め方について説明しています。

①担任から、太郎さんの様子について説明

②担任から、指導の目標(ねらい)、指導場面の提案

③学年会による、指導の目標(ねらい)、指導場面の検討



昼休み時間を指導場面と考えています。太郎さんが、担任に体育館に遊びに行きたいということを伝える場面です。

本人の学校生活を充実させていく上でも、将来のことを考えても、さらには、保護者のニーズも高いことから、担任の提案で概ね良いと思います。ただし、身近な人とは誰なのか、気持ちとは何なのか、さらに検討が必要ですね。



④指導の目標(ねらい)、指導場面の決定

⑤学年会による、指導場面における目標(具体的な指導内容)、支援方法の意見交換

※詳細は、ガイドブック P10~11

指導形態のよさを生かした実践例



生活と結び付けた必然性のある場面を通した指導

日常生活の指導



生活と結び付けた実践的な活動(パーグル作り)を通した指導

生活単元学習



特設した時間と生活と結び付けた必然性のある指導

自立活動の時間
日常生活の指導

※詳細は、ガイドブック P15

他者とのかかわりに関する指導内容表

他者とのかかわりに関する4つの視点を「他者の理解に基づいた行動」、「自己の理解に基づいた行動」、「意思や感情の共有」、「集団活動への参加」と考えました。

学習指導要領における自立活動の内容をイメージしやすいように、4つの視点ごとに具体的な活動をまとめて他者とのかかわりに関する指導内容表を作成しました。

他者とのかかわりに関する指導内容表を活用した、指導の目標（ねらい）の設定例

他者とのかかわりに関する指導内容表には、指導の目標（ねらい）を達成するために必要な指導内容、具体的な指導内容、指導場面例、指導上の留意点を書いてあります。

私は、太郎さんの学校生活の充実や就労実現を考えながら、「言語等による表出」に注目しました。具体的な指導内容の「簡単な言葉で要求を訴える」ことから、「身近な人に自分の要求を正しい言葉で伝える」を指導の目標（ねらい）にしました。



意思や感情の共有

【ねらい】

- ・表情や身振り、各種の機器などを用いた意思のやりとりをする。
- ・話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意思や感情を受け止めたり、自分の意思や感情を伝えたりする。
- ・言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付ける。
- ・コミュニケーション手段を適切に選択・活用し、コミュニケーションを円滑にする。
- ・場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションをする。

*自立活動との関連：2心理的な安定（1）～（3）、3人間関係の形成（2）、6コミュニケーション（1）～（5）

指導内容	具体的な指導内容	指導場面例
視覚・動作等による表出	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード等により表現する。 ・要求サインにより表現する。 ・ひらがなを書いて表現する。 ・短い文章をメモに書く。 ・短い文章やイラストを書く。 ・簡単な分かりやすい文章を書く。 ・接続詞を使った複雑な文章を書く。 	<p>【領域・教科を合わせた指導における指導場面例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の食事におけるおかわりや食べたくない(物)を伝える場面 ・集会におけるプレゼントや調理したものを渡す場面 ・仕事や実習場面における作業内容を聞く、返事をする、作業の終了報告をする、依頼する、訴える場面 ・昼休み時間における自分なりの過ごし方を伝える場面や絵本や遊具などの貸し借りをする場面等 <p>【教科別・領域別の指導における指導場面例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部集会における発表場面 ・児童会活動、生徒会活動における発表場面 ・学習活動における発表場面や自分の意思を伝える場面等 <p>【特設しての指導場面例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意思を伝える活動 ・発表するときのスキルを学ぶ活動 ・話し掛けるときのスキルを学ぶ活動等
言語等による表出	<ul style="list-style-type: none"> ・見慣れている物の名称を言う。 ・人の名前や名称を言う。 ・場面の動きについて話す。 ・物の名称や特徴を話す。 ・自分から話し掛ける。 ・簡単な言葉で要求を訴える。 ・話し方がはっきりしており、相手に通じる。 	
応答場面における表出	<ul style="list-style-type: none"> ・質問を聞いて、はい・いいえで答える。 ・発音が不明瞭だが、簡単な質問に答える。（選択肢） ・質問を聞いて、選択肢の中から選んで答える。 ・質問の意図にあった答えを話す。 	<p>〈指導上の留意点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症のある児童生徒の中には、他者の意図を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝えたりすることが難しい場合がある。そこで、話す人の方向を見たり、話を聞く態度を形成したりするなど、他者とのかかわりやコミュニケーションの基礎に関する指導を行うことが大切である。

※他者とのかかわりに関する指導内容表から一部抜粋

※詳細は、本ガイドブック P24～26

研究内容の詳細と「自閉症のある児童生徒の自立活動ガイドブック～他者とのかかわり編～」は、当センターWebページに掲載しています。